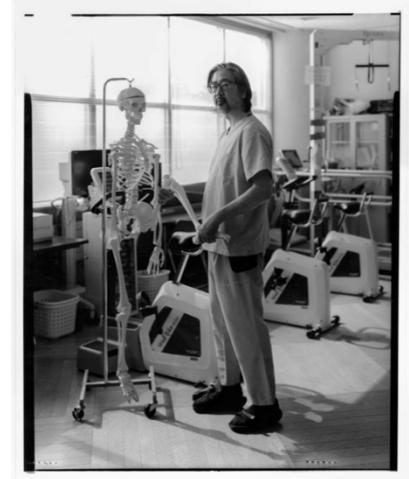


教育講演「リハビリテーションを土星と木星にたとえるならば」

旭川医科大学病院 リハビリテーション科
助教 及川 欧（おいかわ おう）



<略歴>

1991年3月 北海道大学医学部卒業.

- ・卒業後すぐに北海道大学医学部附属癌研究施設ウイルス部門で大学院生活を始める.
- ・毎日、PCRとウエスタン・ブロットィング検査三昧で過ごす.
- ・研究の傍ら、「ストップ・エイズ」ジャパン実行委員会を立ち上げ、HIVやEBVなどウイルス性疾患や差別払拭について、一般への啓蒙活動を開始.

1995年3月 北海道大学 大学院卒業 医学博士.

- ・第14回北海道医学会賞（学位論文：『PCR法によるEpstein-Barrウイルスのヒト体内常在部位と遺伝子発現の検討』に対して）.
- ・学位審査を待ちながら、1月17日に発災した阪神淡路大震災で医療ボランティア活動を行い、また内乱の続く東アフリカの難民キャンプ（ルワンダ）を訪れ、ウガンダでエイズ関連諸団体と交流.

1995年4月 北海道大学医学部 神経内科学講座 入局.

- ・筋萎縮性側索硬化症（ALS）、進行性核上性麻痺（PSP）、プリオン病などに罹患した患者への接し方と通常診療の大変さを通し、神経内科専門医と同時に心療内科専門医資格を取得.

1996年4月 国立療養所札幌南病院 神経内科.

- ・寝たきりの神経難病患者へのリハビリテーションの基礎をそこに所属していた理学療法士、作業療法士、言語聴覚士それぞれに学ぶ.
- ・結核患者への森林浴や温泉療法など代替・補完・全人的（ホリスティック）医療について学ぶ. N95マスクなどフルPPEの日々.
- ・北大前クリニックの本間行彦医師を師匠と仰ぎ、東洋医学（漢方）について学び、後に東洋医学専門医取得.
- ・バイオフィードバック学会（日本と米国）に入会し、基本的な技術を諸先輩方に習う. 2002年（米国バイオフィードバック学会）AAPB

Citation Recognition Award (ポスター演題: "Total Remission of Spasmodic Torticollis caused after intense use of cordless telephone: Psychosomatic or neurologic?" に対して) .

2004-2009年 University of Medicine and Dentistry of New Jerseyへ自費留学.

- 脊髄損傷への心拍変動バイオフィードバックの研究を行う.
- FEMA (アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁) の災害研修を受け, アメリカ赤十字の災害ボランティアとして水害・火災の被害者救済を手伝う.
- 2009年 Central New Jersey ベスト・ボランティア賞を受賞.

2009年9月～旭川医科大学病院(救急科, 途中からリハビリテーション科併任).

- 2011年3月11日発災の東日本大震災の際にDMATメンバーとして花巻空港で広域搬送活動を行う.

2014年11月～2016年3月 第56次南極地域観測隊越冬隊の医療担当・兼・越冬隊長補佐として南極に赴任.

2016年4月～現在 旭川医科大学病院リハビリテーション科.

- 2020東京オリンピック・パラリンピックで6競技の医療担当 (BMXレーシング, BMXフリースタイル, トライアスロン, 車いすラグビー, パラトライアスロン, パラ陸上). その後, パラトライアスロン競技の国際クラシファイア内定 (アジア初).
- 2024年1月1日発災の能登半島地震の際にDMATとJRATのメンバーとして医療支援活動を行う.
- 現在, 「アニマルセラピーとリハビリテーションを考える会」代表として, 動物介在療法について研究を開始.